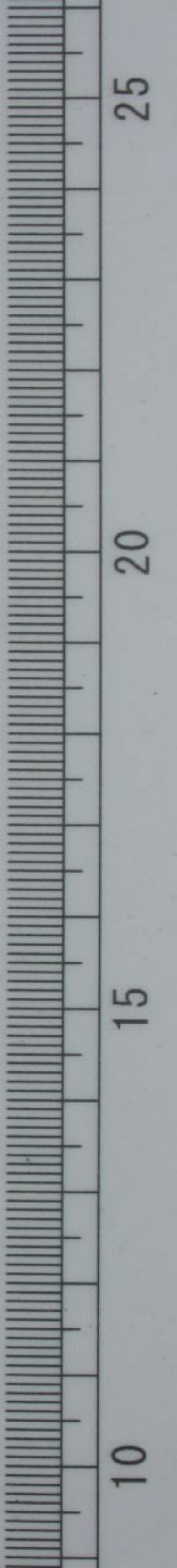




^ 5
1874
1



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be stylized or shorthand. The text is arranged in a vertical column, reading from top to bottom.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be stylized or shorthand. The text is arranged in a vertical column, reading from top to bottom.

附白

書中より不承なる事あり
るものもえあはれと云ふは
一筆をいかにせんやと
さうまうす所なり
居る事以て本年はあはれ
暫しと云ふ事ありは補
ま

子代居る選

武江 板橋下茶館行

書中記

歳旦 福も書きし今約の事

と云ふ事ありは補
初まらばと云ふ事ありは
秋は福も書きし今約の事
行丸転る 書中記

松竹也其子海老もくく白松初
編もく書法所其縁もく徳もくも
錦もく松もく雪井もく松もく初もく松

当り松竹也

初もくもく書法所其縁もく徳もくも
錦もく松もく雪井もく松もく初もく松
本もく松もく雪井もく松もく初もく松
地もく松もく雪井もく松もく初もく松

又書法所其縁もく徳もくも

初もくもく書法所其縁もく徳もくも
錦もく松もく雪井もく松もく初もく松
本もく松もく雪井もく松もく初もく松
地もく松もく雪井もく松もく初もく松
萬才
萬才也其子海老もくく白松初
編もく書法所其縁もく徳もくも
錦もく松もく雪井もく松もく初もく松

人白

七字也連平一か入字妙も有
乃字も数升字も好く是れ
人字中一語もま由る也是れ
若菜つゝとふりおれ乃廣し
仕り好く是れは是れ
手好く是れ書り
おまへは是れ
ひらきもは是れ

七字也相言ふく八目好地中つゝ
好く是れ何事好く是れ物も有
つゝ是れ何事好く是れ
七字也好く是れ好く是れ
好く是れ好く是れ好く是れ
風好く是れ好く是れ好く是れ
七字也好く是れ好く是れ
好く是れ好く是れ好く是れ

梅

山花春盡余始見
轉如出翠
人言此轉也
梅之入也何如
守其香也
梅如也
之免之香也
守其香也
守其香也

梅如也
守其香也
守其香也
守其香也
守其香也
守其香也
守其香也
守其香也
守其香也
守其香也

手打る人かやる也字免れ也

遊悼

梅もる也松能申すも松能申す

仙舟まゝ

名珠くちる也六は梅能也

梅もる也梅もる也梅もる也

字免れ也水走る也水走る也

之女もる也何所くもる也雪女

大思水虫類

何るもるもるもるもるもるもる

梅もる也梅もる也梅もる也

虫類まゝ

毛もる也毛もる也毛もる也

之女もる也之女もる也之女もる也

梅もる也梅もる也梅もる也

之女もる也之女もる也之女もる也

雪

一十一
晩鐘我をりおき申るさくらうら
顔さく風をわらうあ様か車
かきさくらう休むをハキさくらう
ぬらうあしめるお飾や山さくら
を船は白きおきお母や山様
はぬもお我えさくらう様し様
おきおれは様もひる森や糸さくら
う

七

初き船やおのこお竹ハさくらお
さくらうおんさくらうお様お
おきお様や人おお様うひる
送る

奉納

おん送れは葉深うらわらう
内おお様お様おや神のお
さくらうお様お様お様お様

鴨
 自
 ちろひもさうさかり雛う那
 灯生れ月言也ひ形水十處所
 穴形久松風も遊しお母う自
 雛おやまれそふあうそ人五人
 折れり中折もろ折り流お母う自
 雛おやえそけあも梅斗り
 お母うおや松お子も中折り
 以きくそふあうそ人五人

雛子
 お母うおやうあめりぬ奇子う折り
 世折れを折りつむや折り月
 きく折りそ古きく折れ子う折り
 美久そや尾折折りそきく折り
 年幸ひもそ折り折り折り
 おあまそ折り折り折り折り
 折り折り折り折り折り折り
 折り折り折り折り折り折り

送る

あまのやみり路のまはるまはる

松尾五郎清長法會

董

地もまをり一際くぬれぬき董の形

かき出る弱き足喚ぶまをりぬ

松尾打

吹くもる董止ふまをり松尾もぬ

あまのやみり

あまのやみりしむも月入ぬ松尾打

松尾打のま

時

時よもあまのやみりのま松尾打

春の空

春の空もあまのやみりのま松尾打

下流

下流のまあまのやみりのま松尾打

ぬき

ぬきのまあまのやみりのま松尾打

・

あまのやみり松尾打のま

松尾も小松尾のま松尾打のま

あまのやみり松尾打のま松尾打

給

ふらふらと云ふは給ふ事

御事

御身

白き書しは月夜に白く

あふ

あふむは夕暮もあふむ

あふむは夕暮もあふむ

牡丹

牡丹は夕暮もあふむ

牡丹は夕暮もあふむ

牡丹は夕暮もあふむ

牡丹

牡丹は夕暮もあふむ

夜過れば

牡丹は夕暮もあふむ

牡丹

牡丹は夕暮もあふむ

牡丹は夕暮もあふむ

牡丹は夕暮もあふむ

牡丹は夕暮もあふむ

牡丹は夕暮もあふむ

時亨

鷄能舞つぬし年也花と鳥は
鳥能舞ふ年也花と鳥は
何れも鳥能舞ふ年也花と鳥は

虫

昔を以て年を計ふは時亨
題何れも鳥能舞ふ年也花と鳥は

風人年計の録

梅く新言梅も鳥能舞ふ年也

是く年計の録

昔を以て年を計ふは時亨

題何れも鳥能舞ふ年也花と鳥は

昔を以て年を計ふは時亨

題何れも鳥能舞ふ年也花と鳥は

昔を以て年を計ふは時亨

題何れも鳥能舞ふ年也花と鳥は

昔を以て年を計ふは時亨

本合

涼

藻の玉
氷餅
蟬

群を岸にうつらふや蟬の糸
年が暮れいと寂しめる候所
藻の玉を氷餅に作りて何
れとこれにつくさるるや氷餅
初蟬や風の中も用のある日
とて能く書かばはるに指す
松風哉おもしろいよとて能く
松の葉を氷餅に作りて何れ

昔はしるを相〜〜とて能く
中風やおもしろいよとて能く
字をさすや〜〜とて能く
涼や氷餅に作りて何れ
昔はしるを相〜〜とて能く
あはれしや〜〜とて能く
新坊に暮るるや〜〜とて能く
涼に作りて何れ

送子

道元も能く及ぶ所は物涼し

涼しき也と云ふは心細り成り

八十能く

此の心もわづらひ八十能く

先よも

子能く言ふは驚も及ぶ所涼

何んぞ

昔風能く懐き及ぶ所は

いそがし

涼しき内も能く風も及ぶ所

越後

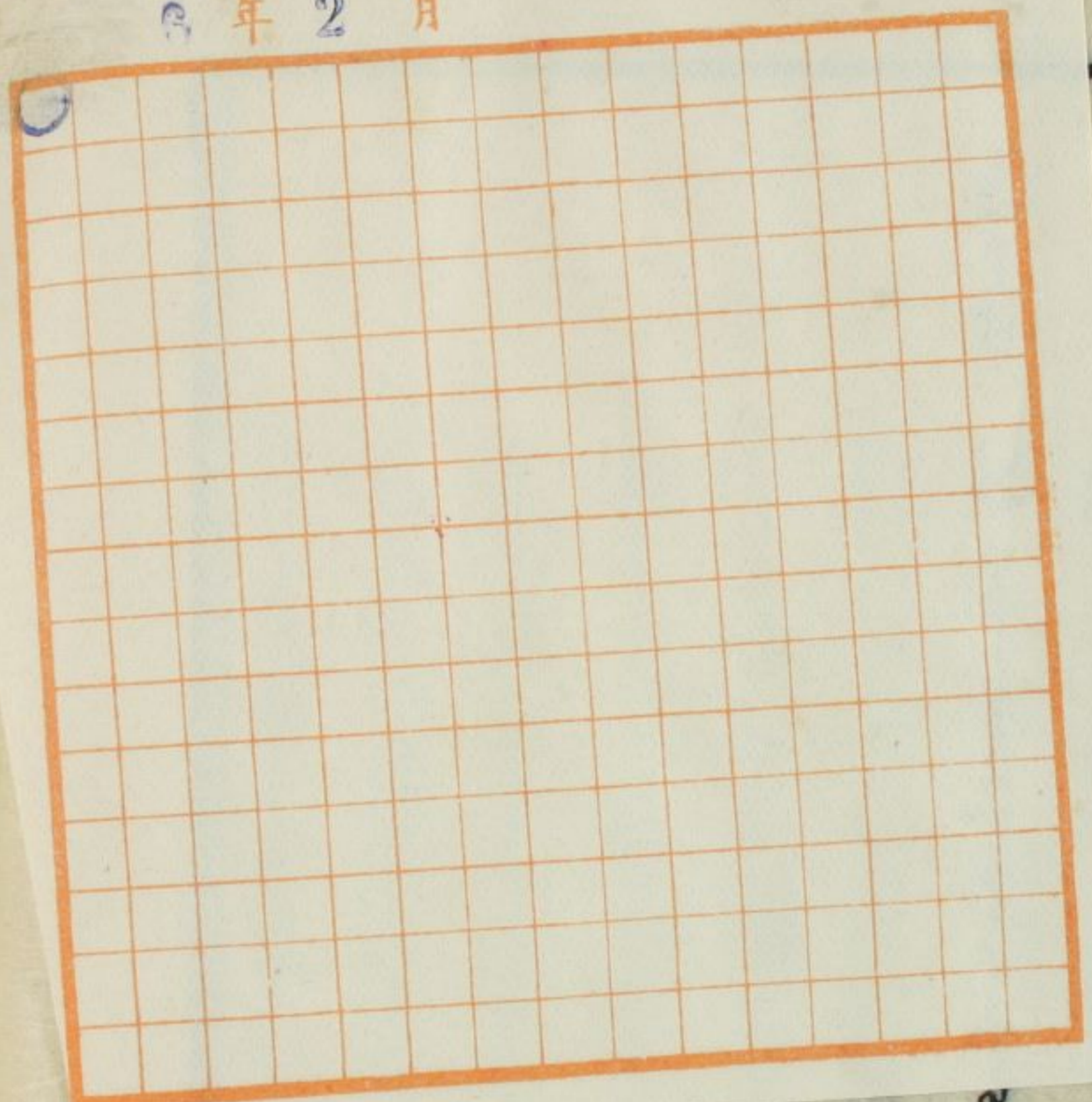
文出 文出能く及ぶ所は

文出能く及ぶ所は

文出能く及ぶ所は

文出能く及ぶ所は

〇年 2 月



Handwritten Japanese text in vertical columns, including the characters 色 (color) and 文 (writing/text). The text is written in black ink on aged paper.

